



テントを立てセルフタイマーで自らを撮影する植村直己(カナダ・アラスカ国境付近で1976年3月)[写真提供=文藝春秋]

達成40年記念特別展

北極圏 1万2千キロと 妻への手紙

2016年(平成28年) **9月9日金~11月8日火**

● 開館時間 10時~18時(展示室への入室は17時30分まで) 月曜休館
*9月19日(敬老の日)、10月10日(体育の日)は開館し、翌日休館

入場
無料



植村冒険館

公益財団法人植村記念財団

〒174-0046 東京都板橋区蓮根2-21-5

TEL.03-3969-7421 FAX.03-5994-4916

ホームページ: www.uemura-museum-tokyo.jp

特別協力=国立民族学博物館

必見

国立民族学博物館が所蔵している実物資料が4年ぶりに登場!
さらに、植村直己がこの冒険中に妻へ宛てた手紙の実物の一部を初公開します

国立民族学博物館が 所蔵している実物資料が 4年ぶりに登場!

さらに、植村直己がこの冒険中に妻へ宛てた手紙の実物の一部を初公開します



カナダ最北の町・グレイスフィヨルドを出発する植村直己(写真提供=文藝春秋)



カナダ北西地方の島々の間を縫うように進み、レプリュートを経てケンブリッジベイに到着しました。すでに海水は薄くなっており、ここで夏を越します。

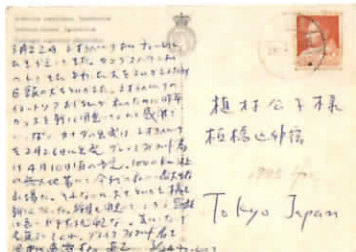
12月に再び旅を開始。カナダ本土のコッパーマインを経て、ツンドラ地帯(陸路)を横断、凍った北極海沿岸を走破していきます。1月末、パウラトゥックではマイナス51度を記録し、厳しい寒さと過酷な行程に犬が次々と倒れていきます。犬を半分近く失いながら、タクトヤクトックに到着。3月にはアラスカとの国境に着きました。

アラスカに入ると、石油の基地があるブルドーベイを経てポイントバローに到着。ポイントバローはアラスカ最北の場所です。次のポイントホープではクジラ猟に遭遇しました。そして、出発から506日目の1976年5月8日、ベーリング海沿岸の町、コツビューに到着しました。

このルートは20世紀になってようやく発見された「北西航路」(大西洋から北極海を経由して太平洋へ抜ける航路)と重なります。植村直己は途中、北極の村々に立ち寄って食糧・燃料を調達し、また可能な限り自分でも猟を行いながら1万2千キロの行程を進んで行きました。たったひとり北極の厳しい自然のなかで暮らしながら、壮大な犬ぞりの旅を作り上げたのです。



冒険で使用したテントと犬ぞり(実物/写真は前回の展示のもの)



妻・公子さんへ宛てた手紙【初公開】

主な展示品

- 北極圏1万2千キロの冒険で使用した装備:犬ぞり、テントなど
犬ぞりはアザラシの脂などの汚れと到着時の海岸の砂などがこびりついたまま(国立民族学博物館所蔵)
- この冒険中に妻へ宛てた手紙 10点(実物・初公開)
手紙の内容は書籍になっているが、手紙の実物の公開は初めて
- DVD上映「これが北極圏の旅だ」30分/植村記念財団・製作(2002年)
*上映時間は各時00分と30分(最終回は17時開始、17時30分終了)

植村冒険館

板橋に暮らし、ここから数々の冒険へと旅立っていった冒険家・植村直己はその生涯にわたって人間の可能性に挑み続けました。板橋区は植村さんのご家族から約1500点におよぶ資料の寄贈を受け、1992年(平成4年)に植村記念財団を設立しました。財団では、どのような状況におかれても人間らしい豊かな心で最善の努力をする冒険精神を伝えるために、彼の冒険を紹介する企画展示や自然を体験する事業を行っています。

ホームページ www.uemura-museum-tokyo.jp

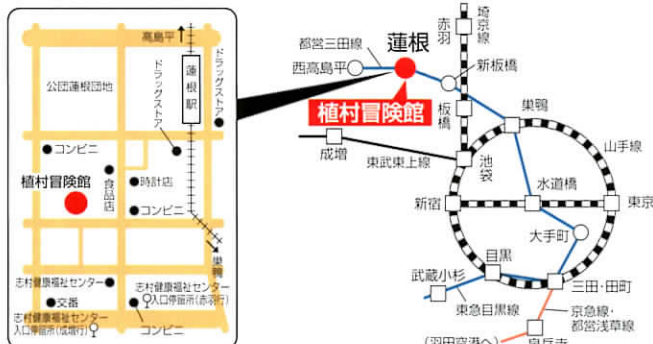
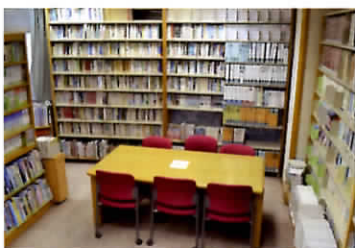
展示室

2階展示室 年4回テーマを替えて、植村直己の冒険を紹介する企画展示を開催しています。



情報コーナー

1階情報コーナー 冒険、探検、登山、アウトドアに関する書籍を集めた「冒険図書館」です。



交通のご案内

都営地下鉄三田線 蓮根駅下車 徒歩5分
東武東上線成増駅北口・JR赤羽駅西口よりバス(国際興業バス)
志村健康福祉センター入口停留所下車 徒歩5分

- 所在地 東京都板橋区蓮根2-21-5
- 電話 03-3969-7421
- 開館時間 10時~18時(展示室への入館は17時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)、年末年始(12月29日~1月4日)
- 入場料 無料